薬事日報

月水金 発行
薬事日報社
東京本社　〒101-8648
東京都千代田区神田和泉町1
☎（03）3862-2141
FAX（03）5821-8757
大阪支社　〒541-0045
大阪市中央区道修町2-1-10
☎（06）6203-4191
FAX（06）6233-3681
購読料（税込）　半年19,764円　1年36,234円

きょうの紙面

臨床研究の申請活用議論…2
電カルから医薬品情報富士通が実験…3
株主提案めぐり緊迫ラクオリア創薬…7
特集　4～5
〈小児・育児用品〉

本号8ページ

非専門医の処方選択に影響

院内フォーミュラリー導入

東北医薬大病院薬剤部

骨粗鬆症治療に用いるビスホスホネート製剤の院内フォーミュラリーを導入した結果、整形外科以外の診療科医師の処方選択に影響を与えた可能性があることが、東北医科薬科大学病院薬剤部の研究で明らかになった。非専門医では、院内フォーミュラリー導入後にビスホスホネート製剤の処方薬剤数が減少し、後発品の「アレンドロン酸ナトリウム錠35mg」の処方がゼロから約4割増加した。同院薬剤部は「院内フォーミュラリーが活用された結果、医師の処方選択に寄与したと考えられる」と分析。院内フォーミュラリーの導入が非専門医への処方提案に有効な方策の一つになるとしている。

ビスホスホネート製剤で

同院では、2018年4月から入院患者を対象とした院内フォーミュラリーを導入しており、昨年8月時点でビスホスホネート製剤、H_2受容体遮断薬など7薬剤群を作成している。既に後発品数量が80%を超えているため、薬剤費の削減にとどまらず、院内フォーミュラリーの対象薬を専門外の医師に処方提案することも目的としてきた。

同院におけるビスホスホネート製剤を対象とした院内フォーミュラリーは、第1推奨薬を後発品の「アレンドロン酸ナトリウム錠35mg」に設定。患者の服薬アドヒアランスも考慮すべきとの整形外科医の助言を踏まえ、月1回内服製剤である先発品の「リセドロン酸ナトリウム錠75mg」も第1推奨薬としている。

第2推奨薬は、同一成分ではあるものの経済性で劣る先発品の「アレンドロン酸ナトリウム水和物経口ゼリー35mg」とし、加齢などの要因で嚥下機能が低下している患者に考慮すべきとした。第3推奨薬は、先発品の「ミノドロン酸水和物錠50mg」となっている。

こうした中、同院薬剤部では、医師の診療科別に院内フォーミュラリーによる影響を比較するため、ビスホスホネート製剤の院内フォーミュラリー導入前後の処方実態を調査し、骨粗鬆症治療を専門とする整形外科医、整形外科以外の医師の処方選択に対する影響を電子カルテ内の診療データをもとに評価した。

その結果、処方されたビスホスホネート製剤は、院内フォーミュラリー導入前には整形外科医の処方薬剤数が37剤、整形外科以外の医師の処方薬剤数が534剤だったのに対し、導入後は整形外科医の処方薬剤数が76剤と増加。整形外科以外の医師の処方薬剤数は419剤と減少した。

整形外科医では、院内フォーミュラリー導入前後にビスホスホネート製剤が処方された患者数割合に有意な差は見られなかった。

これに対し、整形外科以外の医師が処方した患者数割合を見ると、第1推奨薬の後発品「アレンドロン酸ナトリウム錠35mg」がゼロから40・8%と大幅に増加。先発品「リセドロン酸ナトリウム錠75mg」は12・2%から14・4%とわずかに増えたが、「アレンドロン酸ナトリウム水和物経口ゼリー35mg」は67・6%から27・2%、「ミノドロン酸水和物錠50mg」が20・1%から17・6%と有意に減少した。

これらの結果から、整形外科以外の医師では、院内フォーミュラリー導入前後にビスホスホネート製剤を処方した患者数の割合で有意な差が認められており、導入前後で処方されたビスホスホネート製剤が変更になった患者もいたことが明らかになった。

同院薬剤部は、「院内フォーミュラリーが活用された結果、医師の処方選択に寄与したと考えられる」と分析し、院内フォーミュラリーの導入は対象薬剤を専門外とする医師に対し、有効性や安全性、経済性に優れた薬剤を処方提案できる可能性があるとしている。

新社名は「アリナミン製薬」

社長に元エーザイの本多氏

武田CHC

武田コンシューマーヘルスケア（TCHC）は19日、今月31日付で社名を「アリナミン製薬」に変更すると発表した。TCHCは昨年8月、武田薬品が米投資ファンド大手のブラックストーンが運用するプライベート・エクイティ・ファンドへ株式譲渡を決定。今回、TCHCの最大ブランドである「アリナミン」を社名に冠することで、「アリナミンの正統な承継者として、セルフケア、セルフメディケーションの領域で高品質な製品を提供していく」（同社）としている。

本多氏

今回、TCHCの子会社で、アリナミン錠などを製造する武田ヘルスケア（京都府福知山市）も「アリナミンファーマテック」に社名変更する。また、ブラックストーン・グループとTCHCは、アリナミン製薬の代表取締役社長に元エーザイ副社長の本多英司氏、TCHC社長の野上麻理氏が副会長に内定したことも発表した。

31日に予定されているクロージングを前提に、その後の株主総会、取締役会を経て、正式に決定する予定である。

本多氏は、1977年にエーザイに入社後、日本事業や海外事業責任者として欧米亜中の各リージョンを経験し、副社長を務めた。コンシューマー事業では、2005年に薬粧事業部長に就任して以来、11年までジャパンプレジデントとしてコンシューマー事業を牽引。現在は、ブラックストーンのシニアアドバイザーと共に、あゆみ製薬の取締役会長（非常勤）を務める。

事業戦略の方向性については、ブラックストーンと野上氏とで協議を重ね、本多氏を新たにスタートするアリナミン製薬の社長に起用することで合意。野上氏も引き続き副会長の立場からアリナミン製薬をサポートしていくことになった。

昨年9月の両者の記者会見では、今後3年以内に中華圏における海外展開の加速やEコマースを含めたデジタルを活用した販路拡大、スイッチOTCや新商品領域拡大など成長を図ることで、5～10年の期間で新規株式上場を目指す方向性が示されている。

4月1日のアリナミン製薬スタート以降に、方針説明などを行うほか、新社のロゴマークなどを発表する予定という。

無季言

◆薬局でオンライン服薬指導の導入が進む中、指導を受けた後に処方薬を受け取る方法のニーズが多様化している。新型コロナウイルス感染防止の観点から、いかに人と接触せず、家にいながら医薬品を受け取ることができるか各社が模索している◆調剤薬局チェーン大手を中心に、ゆうパックによる当日配送、小型ロボットによる自動配送、冷蔵庫付き宅配ロッカーを用いた受け渡しなど、様々な実証試験が展開されている。近い将来、診療から処方箋医薬品が手元に届くまでのプロセスが家にいながら1日で完結できるかもしれない◆一方で、医薬品が確実に患者本人に届くかについては課題が残る。薬局には、医薬品を受け取った人物が本当に服薬指導を受けた本人なのかを確認する責任が生じるだろう。家族が代わりに受け取るケースも想定される◆安全性が担保された非接触型の配送サービスを確立していくためには、配送業者との事業連携だけでなく、IT技術を保有する企業など、様々な異業種連携を検討する必要がありそうだ。

Q&A 122
化粧品の微生物試験ガイドブック 製品編
～防腐設計、製造工程管理から出荷検査、クレーム対策まで～
著：浅賀 良雄（微生物技術アドバイザー）

A5判 / 約260頁 / 定価3,300円
（本体3,000円＋税10%）

微生物対策のノウハウをQ&Aや事例を交えてわかりやすく解説した「Q&A 181 化粧品の微生物試験ガイドブック」（2019年5月発行）の第2弾。今版は『製品編』として、シャンプー・リンス、メイクアップ製品、洗顔料などの製品ごとに、製造工程での微生物一次汚染対策や製品出荷前の特定菌検査、製品クレームが起きた場合の対応方法について詳しく解説した一冊。

詳細はコチラです↑

薬事日報社　書籍のご注文は、オンラインショップ（https://yakuji-shop.jp/）または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。

当ファイルの著作権は㈱薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル（印刷物含む）の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル（印刷物含む）を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。
株式会社薬事日報社　TEL:03-3862-2141　shinbun@yakuji.co.jp　http://www.yakuji.co.jp/